

業界最高の部品リユース率を実現した再生複合機 2 機種を発売
再生資源由来のプラスチック梱包材の使用により環境配慮を強化

キヤノンは、再生複合機「Refreshed」^{※1}シリーズの新製品として、“imageRUNNER ADVANCE C3530F III-RG”を2024年7月下旬に、“imageRUNNER ADVANCE C5550F III-RG”を2024年8月上旬に発売します。



imageRUNNER ADVANCE C3530F III-RG



imageRUNNER ADVANCE C5550F III-RG



REFRESHED

再生複合機「Refreshed」シリーズのロゴ

キヤノンは1992年から使用済み複合機のリマニュファクチャリング（回収・再生）を行い、「Refreshed」シリーズとして再生複合機を商品化しています。回収された製品を部品レベルにまで分解し、洗浄・清掃^{※2}したうえで、厳密な再生基準に従って劣化・摩耗部品などを交換し、使用できる部品を再使用しています。新製品は、回収前の新品の複合機^{※3}と同等の高い基本性能や品質を備えながら、業界最高^{※4}の部品リユース率を実現した環境特化型モデルです。新品製品の開発段階から再生を視野に入れ、分解しやすく繰り返しの使用に耐えられる設計を行っています。またプリント枚数など市場稼働時のデータに基づいて判別した再使用可能な部品を活用することで、90%以上の部品リユース率を達成するなど、製品ライフサイクルを通じた「脱炭素」、「資源循環」の向上に取り組んでいます。

■稼働時データ活用やプラットフォーム型開発により90%を超える部品リユース率を実現

回収された複合機の稼働年数や故障履歴、プリント枚数などといった稼働データに基づいて、部品の再使用可否をシステムで自動判定し、再使用できる部品を最大限活用しています。また、部品・ユニットの共通化のみならず、製品のクラスごとに本体の骨格を統一化するプラットフォーム型開発を進めることで、同一クラスであれば異なる機種の部品でも活用できるため、再使用可能な部品の増加につながっています。これらの取り組みにより、“C3530F III-RG”の部品リユース率は従来機種^{※5}の約94.3%から約95.5%へ、“C5550F III-RG”の部品リユース率は従来機種^{※6}の約84%から約94%へと向上しました。この結果、キヤノンが提供する再生カラー複合機の全ての機種において、90%を超える業界最高の部品リユース率を実現し、カーボンフットプリント値^{※7}を新品^{※8}と比較して“C3530F III-RG”では約67%、“C5550F III-RG”では約59%削減しています。

■プラスチック梱包材の使用量削減や再生プラスチック^{※9}の使用など環境配慮を強化

「Refreshed」シリーズでは、製品を支える梱包材の緩衝部材やパレット部材に段ボール素材を使用し、プラスチック量の削減および木材の使用を撤廃しています。“C3530F III-RG”では、梱包材の一部をポリエチレン袋から紙袋に変更するなど、梱包材におけるプラスチックの使用量を従来機種の約517gから約8%削減した、約472gにしました。また、梱包材に使用する全プラスチックの約83%を再生プラスチックに切り替えるなど、限りある資源の有効利用に向けた取り組みを強化しています。

※1. 日本市場におけるシリーズ名。欧州では「ES」シリーズとして展開。
 ※2. 一部、凹凸面などは簡易清掃となるため、使用感が残る場合があります。また、樹脂材のリユースによる色味の違いがある場合があります。
 ※3. 「imageRUNNER ADVANCE C3500シリーズ 3rd Edition」および「imageRUNNER ADVANCE C5500シリーズ 3rd Edition」（2019年1月発売）
 ※4. 2024年7月10日現在。（キヤノン調べ）
 ※5. 「imageRUNNER ADVANCE C3530F-RG」（2022年9月発売）
 ※6. 「imageRUNNER ADVANCE C5550F-R」（2021年7月発売）
 ※7. 原材料調達から廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体で排出される温室効果ガスの排出量をCO2に換算し、製品などに分かりやすく表示した値。
 ※8. 「imageRUNNER ADVANCE C3530F」および「imageRUNNER ADVANCE C5550F」との比較。
 ※9. 市販回収材（飲料用PETボトルなど）を原材料として活用したプラスチック。

製品名	希望小売価格（税別）	発売日
imageRUNNER ADVANCE C3530F III-RG	オープン価格	2024年7月下旬
imageRUNNER ADVANCE C5550F III-RG		2024年8月上旬

-
- 一般の方のお問合せ先 : キヤノンお客様相談センター 0570-08-0056
 - オフィス向け複合機ホームページ : canon.jp/office-mfp

〈主な特長〉

1) 稼働時データ活用やプラットフォーム型開発により 90%を超える部品リユース率を実現

- 回収された複合機の稼働年数や故障履歴、プリント枚数などの稼働データに基づいて、劣化や摩耗した部品をシステムで判定。再使用できる部品を最大限活用。
- 部品やユニットの共通化のみならず、製品ごとにクラス分けした本体の骨格を統一化するプラットフォーム型開発を推進。異なる機種であっても、同じ部品を活用できるため、再使用できる部品が増加。
- “C3530F III-RG”の部品リユース率は従来機種の約 94.3%から約 95.5%へ、“C5550F III-RG”では従来機種の約 84%から約 94%へと大幅向上。
- 再生カラー複合機の全ての機種において、90%を超える業界最高の部品リユース率を実現。カーボンフットプリント値も新品と比較して“C3530F III-RG”では約 67%、“C5550F III-RG”では約 59%削減。

2) プラスチック梱包材の使用量削減や再生プラスチックの使用など環境配慮を強化

- “C3530F III-RG”では、梱包材の一部をポリエチレン袋から紙袋に変更するなど、梱包材におけるプラスチックの使用量を従来機種の約 517g から約 472g に削減。
- 梱包材に使用するプラスチックのうち、約 83%を再生プラスチックに変更。



梱包材を紙素材に変更することでプラスチック使用量を削減



製品保護袋や梱包バンド、粘着テープに飲料用ペットボトルなどを原材料にした再生プラスチックを使用

〈複合機再生の工程〉



①回収

オフィスで不要になった複合機を回収し、「キヤノンエコロジーングストーリー」をはじめとするリサイクル拠点に集約。



②受け入れチェック

回収品の製造番号や、機能・外装の状態を多角的にチェック。再生複合機として使用できるかを的確に判断。



③分解

外装カバーや各ユニットを取り外し、フレームだけになるまで解体。ユニットも部品レベルまで分解。



④清掃

本体フレームや外装カバー、分解した部品などを、機械・器具を使って清掃。目視で確認し、基準を満たすまで作業。



⑤組み立て

部品は必要に応じて修理し、劣化・摩耗品を新品と交換して再加工。再生／新品部品をフレームに取り付け、製品を組み立て。



⑥調整・検査

全ての機能が適切に動くように調整・検査を実施。新しい部品のみで作られた製品と同じ水準で品質を確認。



⑦梱包・出荷

厳格な基準をクリアして完成した再生複合機を、丁寧に梱包し、市場へ出荷。

〈複合機再生の工程紹介動画〉

複合機再生の工程を紹介する動画を公開しています。

<https://www.youtube.com/watch?v=HRS94G6j27Y&t=127s>

〈製品仕様について〉

製品仕様の詳細はキヤノンホームページをご参照ください。

<https://canon.jp/business/solution/business-printer/office-mfp/lineup/refreshed>

〈CO2 排出量ネットゼロに向けた取り組み〉

キヤノンは 1988 年以来、「共生」の企業理念のもと、環境保全活動にいち早く取り組み、地球環境や自然環境との良好な関係の構築に注力してきました。2008 年に「ライフサイクル CO2 製品 1 台あたりの改善指数年平均 3% 改善」を環境目標に定め、これまでに年平均 3.95%（2008 年～2023 年）、2008 年から 44.4%の改善を達成しています。これからもあらゆる活動を通して製品ライフサイクルを通じた CO2 排出量の削減に努め、2050 年にネットゼロとすることを目指します。